

**一般財団法人三重YMCA**  
**平成29年度事業計画書(案)**  
【計画期間：平成28年度～平成30年度】

◇ **ごあいさつ**

1 1年を振り返って

平成29年度は、3か年計画の第2年度に当たります。平成28年1月に四日市市西新地の不動産を売却し、同年3月に百五銀行の返済を完了、YMCA幼稚園に事業所を統合して1年が経過しようとしています。

当法人の目標は、一般財団法人三重YMCA（以下財団という。）の存続であります。銀行返済を完了したことで、存続のための、ハードルの一つを越えることができました。これを受けて第1年度（平成28年度）は、財団の財政安定と信用の回復を重点に取り組みんできました。

幸い、幼稚園スタッフの熱心な取り組みによって、新規プログラムの実現と生徒獲得により、財政はほぼ安定しつつあります。これを数字のみで判断してはなりません。たゆまない幼稚園スタッフの取り組みと幼児教育への情熱を視てください。今年度は、目標を達成できる状況です。

第2年度となる平成29年度は、引き続き財団の存続を目標に取り組みます。

2 課題の認識と取り組み

「財団の存続」という目標を達成するために、第1の課題は、財政の安定と信用の回復です。現在、財団の収入の大部分は、幼児教育に頼っています。この状況を改善する必要があります。二つ目の課題は、YMCA幼稚園の土地の賃貸借期間が平成35年12月に終了することです。

前者は、財団が取り組むべき対象を明確にし、それに適した内容を提供することです。人が心身体バランスよく成長することを支援することを願って、プログラムを組み立てましょう。

後者は、現在発足が進められている「三重YMCA」に提議し、社会福祉法人を含めたなかで、幼稚園機能と保育園機能を併せ持った「認定こども園」を念頭に、具体的な取り組みを進めることが最適と考えております。

さて、平成29年度は、財団が設立（昭和49（1974）年3月）されて43年となります。これまでの歩みを振り返ると、それぞれの立場で、様々な評価ができるものと考えています。すばらしい歩みには、感謝と喜びを、よくない事柄には反省と今後の取り組み方を修正し、お互いに共有しましょう。一つ念頭に置いておきたいこと、共有しなければならないことは、なぜ、どのようにして今日の状況になったか、その要因です。節目ふしめに当たって、よく検討する時間をもって決断することが求められます。これからの財団運営は、このことに留意しないと立ち行かなくなる惧れが大きいといえるでしょう。

3 統括団体たる「三重YMCA」の発足と財団運営

現在、一般財団法人と社会福祉法人の統括団体となる「三重YMCA」の発足に取り組みを始めました。これにより三重県のYMCA運動の推進母体ができます。これまで法人ごとに、個々に考えられていたことが、総合的に検討ができるようになります。幅広い見解も期待できます。

財団は、このことを背景に、新しい歩みを始めたいと願っています。

## 4 おわりに

財団の存続という目標を達成するために、もう一つ、継承者の獲得を考えなければなりません。具体的には、理事者の後任の獲得です。クリスチャンという高いハードルがありますが、上述の課題と並行して進めなければならない緊急の事柄です。このことも念頭に置きたいと思います。

財団は、平成28年度を再出発の時と位置付けていましたが、このような乗り越えねばならない課題に勇気をもって取り組みましょう。これらハードルを乗り越えなければ、新しい一般財団法人三重YMCAにはならないと考えています。

以下に、平成29年度の事業計画を平成28年度の一部を修正し、まとめました。

### § 1 意義

一般財団法人三重YMCAは、キリスト教精神をもとにしつつ、宗教、国、政治、人種などの枠を超えて、課題にある青少年の痛みを受け止め、彼らが個人として、また社会人として課題に向き合い、解決していく力をもった人に成長することを願い、そのために必要な諸活動を営む社会教育団体である。

【年間聖句】 「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」

(『新共同訳』 コヘレトの言葉 3章1節)

### § 2 経営理念(ミッション・ステートメント)

三重YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづき、次の使命を果たすための活動を展開します。

- 1 すべての人が、生涯をとおして人間らしく成長することを願い、ボランティアの育成と共に学び合う教育に力を注ぎます。
- 2 お互いの人権を尊重し、共に生きる福祉社会と、すべての生命が守られる環境の実現に努めます。
- 3 歴史に学び、互いの文化を理解し、正義と平和のために、世界の人びとと共に歩みます。
- 4 常に何が正しいのかを、共に考え、話し合い、実践する社会の実現をめざします。

### § 3 経営ビジョン(3年後)

一般財団法人三重YMCAが、3年後にこのようでありたいという願いをまとめたものです。前述したように、百五銀行返済が完了したのは、一つのハードルを乗り越えただけであって、まだまだ乗り越えるべきハードルがある。しかし、並行して未来を見つめつつ歩むことも忘れてはなりません。

- 1 プログラムの価値を高め、新しい価値を提供している
- 2 人々を魅了し、未来を見つめる財団になっている
- 3 地域から信頼と信用を得ている

### § 4 外部環境及び内部環境

#### 1 外部環境

- (1) 上部団体「三重 YMCA」の発足により、三重県での YMCA 運動の推進母体が発足する(平成29年3月目途)。
- (2) 野外活動等の団体活動に参加させたいと願っている親は多い。一方で、家族中心の活動が盛んである。また、団体活動に参加しても、友達同士で行動するパターンが増加している。子どものとき、自然と触れ合う体験をした人は、成人してからも他人と円滑なコミュニケーションをとることができるという報告がある。(『子どもの体験活動の実践に関する調査概要』独立行政法人国立青少年教育振興機構)
- (3) 内容だけではなく、安心・安全の面で信頼できる幼稚園や諸活動が選ばれるようになっていく。
- (4) プログラム参加者の保護者の世代は、その団体の目的や理念よりも、その団体が何をしているか、その意味を理解して活動する、応援したいと思っている、等の特徴をもつ。
- (5) 学校での英語は、活動から教育へと変わる。このため、幼児期からの英語教室に関心が高まっている。また、企業の海外進出により、英語によるコミュニケーション力が求められる。
- (6) ホームティーチャー、子どもの英語教室が増加している。受講生を確保するために他教室と競争が激しく、差別化が求められている。
- (7) 全般的には少子化が進んでいるが、四日市市内や阿倉川地区では子どもが増加している。
- (8) 女性の社会進出が増加し、安心して働くための環境が求められている。
- (9) 商品の生産は、大量生産型(少量品種大量生産型)から、各自の好みに応じて選択ができる少量多品種生産型へと変化している。このため、一律の内容を提供するのみでは、受講生確保がむづかしくなっている。
- (10) 公益法人制度改革を機に、寄付文化の醸成が図られている。
- (11) ボランティア活動をとおして社会に貢献することを希望する人が多い。
- (12) コンプライアンスの遵守が求められている。

## 2 内部環境

### (1) 強み

- ア 経営理念を持っている。
- イ 幼稚園に組織を集中したことで、適正な規模になっている。
- ウ 幼児教育をとおして地域の信頼が高い。
- エ 幼稚園スタッフ、理事者・評議員の士気は高い。また財団の存続に向け取り組んでいる。
- オ 幼稚園は、通常保育の他に、早朝保育・延長保育、夏冬休みの預かり保育を行い、保育園機能を併せ持つ園になっている。
- カ 講師、リーダーと生徒は、活動全般をとおして良好な関係にある。
- キ YMCA幼稚園には、外国人講師が常駐し、野外活動にも同行することで、英語に触れ合う機会が多く、他園と差別化ができていく。
- ク 幼児学童教育、野外活動事業は、長い歴史と経験を持っている。
- ケ 幼稚園スタッフは、豊富な実務経験と資格を持った者が従事している。
- コ 諸活動、教室はリピーターが多く、口コミによる参加者が多い。

- サ キッズステーションという活動拠点を持っている。
- シ キッズステーションは、近鉄駅に近い。
- ス キッズステーションは、地域の中心にあり、周辺地域は住宅が増加している。
- セ 財団は、英語学校というイメージが強い。

## (2) 弱み

- ア 総主事が不在である。リーダーシップが欠けている。
- イ 経営環境の変化をとらえるに遅く、対応が遅れる。
- ウ 理事者は高齢化しているが、クリスチャン条項から後任の確保ができない。
- エ 職員も高齢化が進んでいる。
- オ 人材がおらず、また情報不測のため、新規の企画ができない。
- カ 語学教室は、競合する教室が多く、生徒獲得が困難になっている。
- キ 財団は、英語学校というイメージが強く、青少年団体の側面が薄い。
- ク 理事者・評議員は、理念を優先して事業を考え、収益性の視点が不足している。
- ケ 財団法人は、利益をあげてはいけない、という先入観がある、またそれを収益低下の理由にする。
- コ 「三重YMCA」の賛助会員が少ない。「三重YMCA」を支える人々が減少している。上部団体「三重YMCA」の発足に向け、賛助会員の獲得に取り組んでいる。
- サ 百五銀行の返済は終了したが、個人からの借入金や未払金が多い。
- シ 百五銀行返済完了により資金繰りは徐々に改善されているが、まだ安定していない。
- ス 幼稚園は、スペースの制約から、受け入れ人数の拡大ができない。

## § 5 経営目標（3年後）

経営ビジョンを実現するために、外部環境、強み、弱みを踏まえて、次の目標をたてたい。

- 1 スタッフ及び支援者のサポートにより、プログラムが推進されている
- 2 全国YMCA、地域、教会とのネットワークが成立している
- 3 「三重YMCA」のもと、各法人と協働している

## § 6 経営方針

次の方針のもと、業務を推進します。

- 1 「三重YMCA」に積極的に関わり、事業の枠を拡大する
- 2 全国、近隣YMCAのコンサルタントを受ける
- 3 更なるコスト削減、新機軸となるプログラムにより、収支の安定を図る
- 4 地域企業や教会との連携を進める
- 5 YMCA、他機関の研修会に参加する
- 6 理事者の後継者獲得に取り組む

以 上